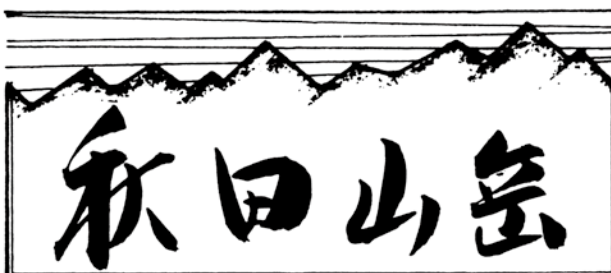


2022



令和4年5月 発行

No. 122

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市土崎港北
5-3-40 鎌田方

TEL・018-846-8150

発行 秋田支部

編集 鈴木裕子

令和4年度秋田支部総会

新支部長に佐藤和志氏を選任

令和四年度日本山岳会秋田支部
通常総会は、四月二十三日（土）
午後一時から、秋田市北部市民サ
ービスセンター三階会議室に於い
て開催された。

総会開会前に、昨年十二月に他
界した保坂隆司名誉顧問、一月に
他界した進藤昭名誉顧問に黙祷が
捧げられた。

鎌田副支部長の進行で、鈴木支
部長から、二年間総会が行われず
会員同士の交流がなかったことは
残念であった。書面表決とせず、
会議形式にした経緯についての説
明と、日頃、支部運営の協力に感
謝するとの挨拶があった。

続いて三浦眞六委員を議長に指
名して、案件の審議が行われた。

案件一 令和三年度の事業報告
は、鎌田副支部長から、コロナ禍
により、令和三年度の通常総会は
書面表決。役員会を二回、事務局
会議を八回、開催した。

支部山行や太平洋山開き市民登
山の中止、それに全国支懇談会や
東北・北海道地区集会、晚餐会ま
でも中止となった。その中でも、
山岳古道調査として、矢立峠と白
木峠の調査は、支部山行を兼ねて
行った。

公益的事業として、山の環境整
備県民協働事業は秋田駒ヶ岳・笹
森山周辺の歩道整備と太平洋山前岳
の歩道整備、中岳周辺の支障木処
理を行うことができた。会報発行
は三回。本会通常総会や支部合同
会議、支部連絡会議、古道調査打
ち合わせはオンラインへと移行。

会員確認では、新入会員の高橋
吉一会員、鈴木加代子会員、小松
芳美会員が紹介された。

案件二 令和三年度決算報告を
鎌田副支部長が説明。大橋会計監
事から、三月三十一日、秋田市北
部市民サービスセンター二階会議
室において行われた会計監査の結
果、関係書類が適正に処理されて
いることが報告され、令和三年度
の事業及び決算は承認された。

案件三 令和四年度の事業計画
（案）、予算（案）を鎌田副支部長
が説明。役員会は年三回の予定。

春秋の支部山行、公益的事業と
して太平洋山開き市民登山等への
協力、太平洋山歩道整備等を行う。

本会通常総会は六月十八日、東
北・北海道地区集会は未定、全国
支部懇談会は神奈川支部担当で十
月八日・九日。年次晚餐会は未定。
会報の発行は四回を予定。

本会百二十年記念事業「山岳
古道調査」は、①矢立峠②秋田街
道③仙北街道④矢島街道⑤鳥海山
古道⑥白木峠を推薦。本部の裁定
により調査を開始する。

案件四 令和四年度予算（案）の
各項目は、ほぼ前年度予算と同額
であるが、事業費については山岳
古道調査があることから増額とな
っているとの説明。令和四年度の事
業計画、予算案ともに承認された。
会員から事務局の配慮で、支出
を抑えるの事業執行に感謝すると
の発言があった。



久しぶりの総会集合写真

案件五の役員改選については提案通りに承認され議事は終了した。議事終了後、鈴木支部長から古道調査の経過説明があった。

記念撮影後、佐藤和志新支部長から就任の挨拶があり、令和四年度通常総会を無事に終了した。

出席者

佐々木民秀 佐藤和志 今野昌雄
鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫
佐藤博 高橋忠雄 川口廣志
大橋忠雄 柴田勸 三浦眞六
佐々木長秀 安藤金栄 熊谷光子
佐藤英實 後藤浩二 三浦昭男
高橋吉一 鈴木加代子 小松芳美

秋田支部役員

名誉顧問 長岩嘉悦

顧問 佐々木民秀 今野昌雄

鈴木裕子 堀井弘

支部長 佐藤和志

副支部長 鎌田倫夫

事務局長 鎌田倫夫兼務

会計担当 後藤浩二

委員 佐藤助雄 佐藤安弘

三浦眞六 安藤金栄

熊谷光子 三浦昭男

高橋吉一 鈴木加代子

監事 大橋忠雄 柴田勸

就任のご挨拶 八代目秋田支部長として

支部長 佐藤和志



令和四年度通常総会において、鈴木裕子氏のあとを引き継いで支部長に推薦され、引き受けることになりました。

会の運営は、前支部長を目にしながら責任の重さを十分に感じていながら自信もなく、受けることの重大さに恐縮しております。

思い出すと、二代目柴田均二支部長の時、南八幡平の二十周年記念登山に、台湾の玉山「新高山」の計画があり、昭和五十三年当時は、台湾山岳協会の招待がないと行くことが出来ない現実があり、柴田支部長、鈴木清事務局長の推薦を頂き、藤原健、田口善信、私の三人を日本山岳会に入会させていただき、七名で招待を受け、登山出来たことに始まり、日山協の技術指導員で、今は亡き松永先生の知遇を得て、年次晩餐会等、色々

な会で多くの方を知り逢うことが出来、歴代の支部長、又、県内の山岳会の方々にもお世話になっておりますので、少しは山の関係で恩返しができればと思います、お引き受けいたしました。

鈴木前支部長は、公務の職員でありましただけに、事務手続き、手順、進め方は完璧で、会の六十年記念行事、東北北海道地区集会、年次晩餐会、記念登山等、多くの行事を無難にこなして来たことを見習い、頑張っていきたいと思えます。

山の秘湯の主が、ハイテクに走るのをよしとしないで、アナログに徹してきておりますので、事務局の皆様には多分ご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願ひします。

又、日本山岳会百二十周年記念事業も、引き続き会員の皆様と進めて行きたいと思えますし、会員相互の交流を図り、山の先輩の皆様のご指導を頂き、会の活発化に繋がりたいと思いますので、これをもって就任の挨拶とさせていただきます。

山岳古道調査情報

山岳古道調査秋田支部の担当は秋田街道を秋田・岩手支部、白木峠は秋田支部となっている。

一月二十日の支部連絡会議の資料には、鳥海山古道が踏査リストにあり、対応は本部となっていて、外せない山だが、範囲が広く、支部での調査はどうか、本部で調査出来るなら、という条件が必要、と記載されていた。

三月二十日のメールには、鳥海山古道の調査箇所は①吹浦口②蔵岡口③矢島口④小滝口⑤滝沢口⑥院内口の六コース、羽州街道には矢立峠と矢島街道も含まれていて、いずれも担当は秋田支部。本部に確認のメールをしたら担当から外すとのこと。四月十日のメールには、どちらも担当欄が空白。このままでも出発し、状況に合わせて対応すること、本部でも調整に苦慮しているらしい。

支部としては、担当をお願いしている矢島地区会員へ説明をして了解を得る必要があるのですが、空白のままをお願いした。

秋田街道の調査は五月二十八日に岩手支部と合同で行う。

※全国山岳古道調査

日本山岳会百二十周年記念事業調査期間は令和三々令和七年度全国で百二十の古道を調査予定

退任のご挨拶

前支部長 鈴木裕子



平成三十年度の支部総会で支部長を引き受けることになり、二期四年間務めさせていただきました。この間、事故もなく役割を果たすことが出来ましたことは、支部役員はじめ、会員皆様のご協力のお陰であり、心から感謝申し上げます。

私が委員として事務局にお手伝いをするようになったのは、平成十三年度からで、十七年度からは事務局長として、三十年度からは支部長として、約二十年間支部事務に携わって参りました。その中で大きな出来事は、平成二十四年、日本山岳会が一般社団法人から公益社団法人に移行したことです。

それまでは、各支部独自の運営でしたが、文部科学省の下で指導を受けるという、法で律せられる団体になったことです。

公益的事業(社会貢献)を行うことが課せられ、これまでボランティアで行っていた太平洋山歩道整備も公益的事業として行うことになりました。

会計も、これまでは自由に使えた本会からの補助金も、公益的事業、公益的事業(会員のため)に振り分けられ、支出しなければ本会に返還する、という仕組みにもなりました。

この頃から、本会との諸連絡や報告は、パソコンメールが主体となり、諸事務が煩雑化していったと思います。コロナ禍のこともありますが、今は会議もオンラインです。

事業としての思い出は、平成十五年に始まった、本会創立百周年記念事業「中央分水嶺調査」に参加し、県内中央分水嶺のほとんどを踏破出来たことは、私にとって大きな喜びでした。

支部行事の韓国や台湾への海外登山、東北・北海道地区集会「森吉集会」等、多くの行事にも参加した二十年间でした。

周年記念事業も、平成十一年に「四十周年記念誌」作成に、ワープロが使えるということでお手伝

いたのが始まりです。その頃は、パソコンは一般的でなく、ワープロの全盛期でした。それから「六十周年記念誌」まで、前任者の指示、ご指導、先輩会員のご協力を頂きながらの作業でした。

会報「秋田山岳」については、「支部活動を網羅して掲載する」を引継ぎ、会報だけで支部の歴史がわかるようにと心がけて、作成してきました。

令和四年度からは、県内の観光行政に大きく貢献している、佐藤和志支部長を中心に、支部の新しいページが開かれます。

本会創立百二十周年記念事業「山岳古道調査」も始まります。新時代の秋田支部の活動に期待します。

不行き届きも多々あったことと思いますが、長い間ご協力を頂きありがとうございました。

最後に、秋田支部並びに日本山岳会の益々の発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念して、退任の挨拶と致します。



芽吹き始めた春蘭
太平洋・前岳

おめでとう

ございます



長岩嘉悦 名誉顧問

横手市スポーツ賞

功労賞を受賞

山岳に関する知識、技術、指導性に富み、人格的にも円満で、高い品性と教養を持ち、明晰な指導者である。

横手美入野岳友会顧問

増田山岳会顧問

増田山岳会創立者であり、昭和五十八年から平成二十一年まで会長を務める。

著書 智者愛水仁者樂山

焼石岳に魅せられて

山と友(共)に歩んで70年

共書 新日本山岳誌



(二月二十三日

横手市体育館で授賞式典)

会務報告

○会計監査

三月三十一日 午前十時から秋田市北部市民センター「キタスカ」二階会議室で、令和三年度会計監査を実施。関係書類が適正に処理されており、正確であると承認された。

出席者

会計監事 柴田勸 大橋忠雄
会計担当 石川祐子
支部長 鈴木裕子
副支部長 佐藤和志 鎌田倫夫
事務局担当 後藤浩二

○役員会

三月十九日午後一時から、秋田市北部市民センター洋室6で開催。支部長から、令和三年度もコロナ禍で、支部活動を計画通りに行えなかった一面もあったが、この状況下で一定の成果をあげて頂いたこと、日頃の委員皆さんの協力に感謝する。」との挨拶があった。続いて、令和四年度秋田支部通常総会に提案する案件、令和三年度事業報告、決算、令和四年度事業計画(案)と予算(案)を協議。

古道調査については、秋田街道と白木峠について進めて行く。矢立峠については青森支部の対応を、鳥海山古道については距離も長く当支部だけの対応は困難である

と思う等。

役員改選については、推薦された全員の了解を得ていることを確認した。

会計監査は三月三十一日、午前十時からおこなう。

総会は、令和二年度、三年度と、この二年間、書面表決であった。

令和四年度通常総会の開催については、コロナ禍が沈静化の方向とはいえず未だ収まっておらず、書面表決にすべきとの声もあったが、佐藤和志副支部長から「新規に入会された方もおり、お互い、会員の顔も分からないままで支部活動が進められている。これまではやむを得なかったとはいえ、このままでは問題がある。出来るなら、報告すべきことや今後のことを、総会の場できちんと説明するのが本筋である。」との意見があり、総会は開催することとした。

支部長からは、本部との事務連絡は、メールとオンライン会議に変遷し、各担当者に大変難儀をかけている。また、秋田支部名誉顧問二名が、相次いで他界され、寂しいとのことであった。

(報告 三浦昭男)

出席者

鈴木裕子 佐藤和志 鎌田倫夫
石川祐子 川口廣志 三浦眞六
熊谷光子 後藤浩二 三浦昭男
柴田勸 大橋忠雄

○事務局会議

・三月十九日 役員会終了後開催
総会に提案する案件、春の支部山行等確認

・三月三十一日午後一時 秋田市北部市民サービスセンターで開催
総会案内等発送。

山岳古道踏査に関すること。
次回役員会等の打ち合わせ。

出席者

鈴木裕子 佐藤和志
鎌田倫夫 後藤浩二
三浦昭男

太平洋山遭難救助協力員を登録

中央地区山岳協議会の太平洋山遭難救助協力員(令和四・五年度)として次の支部会員を登録。

秋田支部登録者

佐々木民秀 鎌田倫夫 堀井弘
安藤金栄 今野昌雄 三浦眞六
歩仁内昌樹

他団体から登録の支部関係者

若月 寿 佐藤 博
大橋忠雄 川口廣志

会員の動静

退会 石川祐子(令和四年三月)

編集後記

令和四年度の通常総会が開かれ、久しぶりに会員同士が顔合わせ、新入会員の方々ともお会いした。全国支部懇談会も開かれる予定であり、他支部会員との交流も復活することを期待したい。

コロナワクチン三回目の接種を終えた。四回目の接種も検討されているようである。感染者は減少傾向にあり、以前のようにならず自由ということではないが、少しずつ行動規制が緩和されて来ている。国内生産の経口薬が一日も早く承認されることが望まれる。

太平洋・中岳直下(三角井戸)で遭難死亡事故があった。登り慣れた山でもちよつとしたことが事故につながる。山に登るときは必ず、家族、又は友人に行き先を伝えておくことの大切さを感じた事故だった。

ロシアのウクライナへの軍事侵攻による悲惨なニュース映像には目を覆いたくなる。一日も早い終結を願っている。

新会報担当が決まるまで、編集を続けることになりました。もう少しお付き合いをよろしく願います。

(編集者 鈴木裕子)